

BB 通信

9月 vol.11



×



新チーム始動、第2回フューチャーズリーグ開幕、関西秋季大会阪南支部予選、慌ただしく9月が終わり、秋の香りが深まってきました。支部予選では、夏に引続き「堺ビッグボーイズ・南花台フューチャーズ」の2チームが出場、学年問わず多くの選手が試合出場、ベンチ入りすることができました。また、予選期間中、多くのOB保護者の方を含め、ベンチに入っていない下級生の保護者の方が多数試合応援にお越しいただく姿を目にしました。何気無い行動がチームの力になっていることは間違いありません。堺ビッグボーイズは10月17日(土)開幕の関西秋季大会本戦に進みます。選手とともにどっしりと挑みたいと思います。引続きご声援よろしくお願いします。

「遠回りのすすめ」

代表 瀬野 竜之介

「スポーツの秋」ですね！第2回フューチャーズリーグが始まりました。3ヶ月に渡るリーグ戦方式の大会です。勝っても、負けても「次」があります。

失敗の中から色々なことを学んでください。選手たちはとにかく思い切りプレーすること！

さて、最近首都圏を中心に増えてきたのが、平日の技術指導を目的とした「野球教室」「野球スクール」です。色々な意味でスポーツも「塾化」してきていますね。

もちろん、全てを一括りには出来ませんが、仕事上現場に出向くこともあり、話を聞くこともあり、の立場からすると、「すぐに結果が出ます！」「グングン上手くなります！」「球が速くなります！」こんなコメントに違和感を覚えます。

「もう少し、こうすればよくなるのに。」「ここ(肩、肘、腰、膝)が、こうなっているから、もっとこうするように。」いわゆる「部分」を指摘する指導です。特に上半身の「枝葉」を指摘する指導は今までの経験からも大変危険です。よほどの指導経験や、指導をわかっている人でないと、良くなるどころか致命的なことになってしまう場合も多くあります。

そんな部分的な指導によって、何か身体の中に違う「動き」が加わった時、一時よくなる時？よくなった錯覚？に陥る時があります。これが、勘違いの元。自分で感じた、答えを見つけたものではないので、次のアレンジが出来ません。応用が効きません。

もっとこうかな？こうすればどうなるかな？の試行錯誤で、自分で行きついた、身体で覚えたものが、「本当の技術」になるのです。

昨今、塾や教育現場でも問題になっている、「知識詰め込み型教育」がスポーツにも押し寄せ来ているわけです。

皆さんお分かりの通り、堺ビッグボーイズの指導とは相反するアプローチです。「ちょっと打てない」から、「もっと速い球が投げたい」から、そんな動機で結果を急ぐべきではありません。

チームのメニューの中に、将来彼らのためになることが満載されていますので！

「勝って驕らず、負けて腐らず」

コーチ 久富 恵介

ご存知の通り、堺ビッグボーイズが厳しい予選3試合を勝ち抜き関西秋季大会本戦出場が決まりました。予選突破できた要因は何か？一つは当然、選手達のがんばりです。次に私が強く感じたことは選手と、我々スタッフと選手の信頼関係です。ビッグボーイズは投手はもちろん野手の選手交代が非常に多いチームだと思います。今回の予選ではこちらの起用に選手達が応えてくれました。下級生の頃からそういう選手起用をしているので選手達は「そろそろ声が掛かる」「準備をしよう」常に心と体の準備を行ってくれています。

2年生の保護者の方も1年生の頃は「こんな練習・試合で大丈夫か？」全員がそう思われていたのではないのでしょうか？今回は選手のがんばりもあり試合に勝てました。チームにも良い影響があることは言うまでもありません。ですが、入部した頃から取り組んでいることは、予選を通過するために取組んできた訳ではありません。野球の技術面では高校・大学・社会人・プロに繋がる取組みをしています。今の結果ではなく彼らが大人になった時に人として「強く生きる・豊かな人生を送る」ことができるようにアプローチしています。

良い結果が出た時こそ謙虚に取り組むことが大切です。野球は勝ったり負けたりスポーツ、どんな時も揺らぐことのない姿勢を我々大人が選手に示していきたいですね。

『入ってこない！！ならば自分で取りに行こう！』

コーチ 阪長 友仁

日本のプロ野球もシーズンがまもなく終了してプレーオフへ、我々が所属するボーイズリーグも関西秋季大会が行われ、今年の野球シーズンもまもなくクライマックスを迎えます。

海の向こうでは世界最高峰のメジャーリーグもまもなく長いレギュラーシーズンが終了します。日本より19試合多い162試合を行い、しかも延長戦は決着がつくまで、予備日なしのダブルヘッダー有り、最大時差3時間の長距離移動有りですから、それは本当に長い戦いです。このレギュラーシーズン終了後は、アメリカンリーグとナショナルリーグの各3地区の優勝チームと、2位以下で勝率の良かったワイルドカードで出場する4チームを合わせた合計10チームのみ(全30チーム中)がポストシーズンに出場します。

今年のナショナルリーグ西地区ではロサンゼルス・ドジャースが、現地時間9月29日に行われた宿敵サンフランシスコ・ジャイアンツとの試合に勝利して優勝を決めました。この敗戦で過去5年間のうち3度もワールドチャンピオンに輝いたジャイアンツは、ワイルドカードの可能性もなかったため完全にポストシーズン進出の可能性がなくなりました。長いシーズンでも特に重要な試合、しかも近年ポストシーズンに非常に強いジャイアンツが敗退するということはメジャー全体でも大きなニュースです。

しかし残念だったのは、この日の日本での報道です。もともと、あまりメジャーリーグはニュースにならないのですが、インターネットで検索してみてもメジャーに関するトップニュースは『イチロー4タコ』。悪いけどそんな関係ありませんやん！次のニュースは『西武の秋山がシーズン最多安打でイチローに並んだ』。それ、メジャーのニュースとちやいますやん！世界を代表する左投手同士(ドジャースのカーショウとジャイアンツのバムガーナー)の投げ合いで優勝が決まった試合に関する報道はお目にかかることができませんでした。

残念ながら、日本の報道では世界最高峰のメジャーリーグの情報や、そこでのプレーの様子、どこの国の出身のどんな選手が活躍しているのかという情報がなかなか入ってきません。アメリカやラテンアメリカの子供たちは日々メジャーリーグの情報・映像を目の当たりにし、いつかここで自分もプレーするんだと目を輝かせているのとは大きな違いがあるのではないかなと感じてしまいます。日本でもMLB.COMや有料になりますがMLB.TVなどでも映像が見られますので、ぜひお子様とメジャー鑑賞されてはいかがでしょうか？最初は知らない選手ばかりかもしれませんが、出身地を知ったり、プレースタイル、チームの特徴などもわかってきたりするとグンと面白くなります。合わせてお子様の英語の勉強にもなります！！

なかなか日本には海外の情報が入ってこない現状があります。でも、必ず世界のどこかには転がっています。今の時代、情報は与えられるものではなく、自分で取りにいくなかに変化しているのかなとつくづく思います。